

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100142		
法人名	社会福祉法人 岳南厚生会		
事業所名	グループホーム たかはら		
所在地	〒418-0022 静岡県富士宮市小泉1625番地の25		
自己評価作成日	平成 28 年 4 月 2 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 6 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 28年 4月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センター方式を活用し、利用者様のこれまでの生活や習慣を把握し、馴染みの関係を築くことで、毎日安心して生活して頂けるよう努めています。
地域密着型の事業所として地域に貢献し、地域との共生を目指し、地域で行われている行事には参加できるように努めている。
利用者さんやご家族が安心して生活できるように支援を継続的に実施することで、信頼関係を構築し、地域で認められるような事業所となるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園風景の中に溶け込むように事業所があり、鳥のさえずりや川の音色が心地よさを感じる施設です。小規模多機能事業所、福祉相談センターなどが隣接されており、地域の相談窓口としての機能ももたれています。開所三年目という事もあり、地域行事への参加も利用者と共に出来ています。また、縁側サロンを開催するなど地域の交流の場として事業所が活用されていました。個々の利用者を優先し、思いに沿ったケアを実践するため、繰り返し職員間で話し合い取り組まれていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだまだ理念や思いが浸透しているとは言いが職員が目につくところに理念を掲示し、事業所として目指して行く方向性として認識してもらえるよう努めている。	月1回のミーティングで施設長、管理者から理念の文言として職員に伝わりにくい部分を「利用者優先に考え、思いに沿うケア」と置き換えて分かりやすく指導されています。都度、目指す方向性について話し合いがなされていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会の隣組に加入し、回覧板にて地域の情報をキャッチし、参加できる行事にはできるだけ顔をだすように努めている。ハロウィンには近所の子供たちが仮装して来てくれている。	隣接している小規模多機能事業所と共同で縁側サロンを定期的に開催。地域の運動会や防災訓練、どんど焼きなどに利用者と共に参加する等交流も持っています。また、訪問時にも近所の方が遊びに来るなど日常的な交流も見られました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に近隣を散歩することや行事参加により、認知症高齢者がいるということを知り、認知症に対する理解を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動状況を利用者さんのご家族代表をはじめ、区長や民生児童委員、行政より市の担当課職員や地域包括支援センター職員等に報告し、意見が反映できるように努めている。	運営推進会議には、地域住民、行政関係者、利用者家族等が参加。会議では、離設の可能性のある利用者についての見守り協力や自己評価、防災対策、総合事業について等事業所の課題について参加者と活発な意見交換がされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課職員や地域包括支援センター職員へ随時連絡をとる体制を整えるように努めている。	事業所の一角が地区の福祉相談センターとなっており市町村との連携がしやすい環境にあります。行政とも必要に応じて情報交換や報告がされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を届出しており、全職員が身体拘束廃止に向けて取り組むように努めている。	法人全体で月1回身体拘束委員会を開催し、廃止に向けた取り組みがされています。議事録は、事業所で回覧し、ミーティングでも報告されています。身体拘束についての研修が内部・外部共に年1回計画されていました。身体拘束0宣言のポスターは玄関の目につく所に掲示されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に利用者さんの全身状態を把握し、変化を見逃さないよう努めている。また、管理者は職員の心身の変化に素早く気付くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方に該当者がいないため、職員に対しての研修機会を設けていないが、研修等において学ぶ機会をつくるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項等の説明を行った上で、不明な点に関しては、その場にて思い浮かばない場合もあるため、再度読み返す機会を設けて頂いた上で契約を締結するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ利用者さんのご家族としてご参加頂いたり、職員等と連携を密にとることで、誤解や不満による苦情等が発生しないように努めている。	利用者の日常の声は、ミーティングで話し合われていました。家族には、行事等に参加の呼び掛けや、月1回の便りで活動内容の報告等働きかけを行っていました。現在、苦情に至るケースはありませんが、率直な意見交換ができる関係づくりについては、課題とされていました。	意見の出しやすい関係性を作られるためにも日頃からの関わりが大切だと思います。5月に家族懇談会を計画されているという事でしたが、意見をくみ取る仕組みを作り運営に繋げて行かれる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングを実施し、話し合う機会を設けている。職員が疑問の蓄積による疑問や不満の蓄積による就業意欲の低下を防ぐように努めている。 また職員が意見を言いやすいように日常的にコミュニケーションを図るように努めている。	施設長、管理者、職員等が全員参加し、月1回ミーティングを開催。個々に意見を求め発言できる機会を作っていました。また、年2回は事務長、指導課長と面談があり、職員体制や環境改善について意見がされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にとって働きやすい環境づくりという点においては、法人と事業所との間に理想と現実の開きがあり、必ずしも職員にとって良い環境になっているとは言い難いが、それぞれが話し合いの機会を持つように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状では、職員の配置等により、ぎりぎりで調整しているが、できるだけ外部研修に参加できるように努めている。また法人内研修や事業所内研修を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者連絡協議会の小規模ホーム部会に所属し、小規模多機能型居宅介護やグループホームの事業所間において情報交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの特性を活かし、利用者さんの要望等を初期段階で聞き取り、柔軟な対応ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活や家族関係を把握しご家族の思いに添うように心がけている。またできるだけ関わりが希薄にならないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに対する理解をして頂き本人、ご家族の状況を見極め、ニーズに添った対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんにとって自宅にいるような雰囲気になるよう また、くつろぎが得られるように努めている。時間を共有し本人が役割を持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんのご家族にとっても自宅にいるような安心感を得られるように努めている。また家族間の良好な関係が保っていけるよう日頃の様子をお伝えするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームを利用していただく際に本人、ご家族の思いを汲み、どなたでも気軽に訪ねて来て頂けるよう、また、いつでも外出できるように努めている。	家族から面会者についての情報を得る、関係性の確認を行う等情報収集し、記録されています。友人との面会は自由に行う事が出来ます。また、馴染みの店、床屋などに外出支援を行う等入所後も関係性の途切れない支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格や性質、生活歴等に配慮し、職員は利用者さん同士のコミュニケーションの橋渡し役に徹するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスへ移行された利用者さんや利用が終了した利用者さんに対して、必要に応じて、相談や支援を行うことができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんやご家族より、どのような生活を望んでいるのか、また、どのような思いで生活してきたのかを把握することに努めている。	入居時にアセスメントを実施し、その後も家族の面会時に要望の確認を行っています。意見は、介護サービス計画書に反映していますが、施設側にお任せすると言う家族が多いのが現状であり、課題とされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんやご家族より、どのような生活をしてきたのか、コミュニケーションをとることで把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの情報や日常の様子を把握し職員間の情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心、安全に生活ができるような介護計画を作成し、状況に応じ、変更できるように努めている。	24時間シートを日常記録として活用しています。担当者の意見を踏まえ、モニタリングがされていました。ミーティングで毎月ケース検討もされています。状態変化がある場合は、都度見直しを行なっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の様式を日常の記録として利用することによって、利用者さんの状態を把握し、職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さん、それぞれにあった支援を行い、柔軟性のある対応に努めている。またご家族の思い添えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加することで、利用者さんの地域での生活を支援し、また、併設する小規模多機能型居宅介護事業所を活用し、社会性を広げるきっかけづくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんのかかりつけ医を尊重し、随時連携を密にできるように、受診時の情報提供やかかりつけ医との情報共有に努めている。	現在は6名が事業所の協力医、3名が他の医療機関となっています。受診時には情報提供を行い家族が受診対応を行っています。また、隣接する小規模多機能の看護師と連携を持っています。訪問歯科診療の利用も希望に応じて対応していました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たかはらにおいて、介護職と看護職が兼務をしているため、連携がスムーズに行われ、情報の共有化に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の入院施設がある病院の医療従事者との連携を密に行い、入院及び退院時に利用者さんやご家族が不安にならないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護状態が重度になったり、看取り状態になった場合の支援や対応については、利用者さんやご家族との共通理解のもとで協力し、実施できるように努めている。	平成26年に1件看取り介護を行ってから対応ケースはありません。看取りについては「状態悪化時の対処方針・同意書」で意向確認し、医師を交えて担当者会議を開催し同意を得て実施されています。しかし、看取り介護に関する、具体的内容を示す指針等は準備されていませんでした。	利用者・家族が安心して利用できる為にも、看取り介護に関する具体的な指針は重度化された場合でなく、入居時に事前に説明できるよう準備され、利用者・家族の意向を確認されていくと良いでしょう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の介護経験や従事期間によって差異はあるが、実際に急変時や事故に立ち会うことで、実践力を養うことができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災訓練への参加や避難訓練を実施することで災害に対する意識を職員が常に持つように努めている。なお、夜間の訓練が実施できていないため、小規模多機能型居宅介護事業所と合同に行いたい。	年2回(火災・夜間想定)防災訓練を実施。地区の防災訓練にも参加し避難場所までの訓練を行っています。防災頭巾、ヘルメットの準備が来ていますが水、食料などの備蓄の整備が出来ておらず課題とされていました。また、マニュアルが整備されておりませんでした。	地域の受入れも視野に入れ運営されている事業所ですので、本体施設とは独自に災害備蓄の準備を早急にされると良いでしょう。また、事業所に合わせた防災マニュアルの整備と職員教育についても取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある声かけが馴れ合いによる対応とならないよう職員間で確認し合うことで、利用者さんの人格が尊重されるように努めている。	ミーティングの中でスピーチロック等について繰り返し、施設長・管理者から指導されています。訪問時に気になる言葉かけはありませんでした。特に入浴・排泄等の声かけは、周りに聞こえないよう配慮されています。研修も実施されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に利用者さんとのコミュニケーションを図ることで、利用者さんが思いや希望を表すことや自己決定ができる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や寝起きは、職員の都合にて決めることはせず、利用者さんの体調や生活リズムに合わせ、希望がわがままにならないよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんが起床時や入浴の際衣類を自ら選んで頂くよう声掛けをしたり、各お部屋に鏡を設置し、身だしなみやおしゃれに気を遣うことができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの嗜好や旬の食材の使用することで食べたくなる食事の提供を行っている。また定期的にイベント的な昼食会を開いている。準備や片づけを利用者さんと一緒にできるよう努めている。	以前は専任の調理師が調理を行っていましたが、現在は朝・夕を事業所で作り、昼は本体施設で作っています。味噌汁の味見、片づけ等利用者と共にやる事を心がけており、瀬戸物の食器を使い温度にも配慮する等食欲に繋がる工夫を感じました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式の様式やチェックシートへ記録することによって、利用者さんの状態を把握し、職員間の情報の共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	センター方式の様式やチェックシートへ記録することによって、利用者さんの状態を把握し、職員間の情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式の様式や排せつシートへ記録することによって、利用者さんの状態を把握し、職員間の情報の共有に努めている。	一日中オムツを使用している利用者はなく、トイレで排泄ができるよう誘導していました。誘導のタイミングも排泄の記録を活用し、個々に合わせて対応されています。言葉にならない気持ちをくみ取り誘導する等配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を摂取できるように工夫を凝らし、屋内でこもりがちにならないように外気浴にて気分転換を図り、からだを自ら動かす気持ちになるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、曜日固定の対応になっているができるだけ本人の希望に添えるよう配慮し希望がわがままにならないよう支援することに努めている。	個浴での入浴となっており、車椅子の利用者は職員が2名で介助していました。入浴は、13時30分から16時を基本としています。入浴回数については、現在週2回となっており、今後個々に合わせて考えていく事を課題とされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での過ごし方と大きく変えることはせず、うたた寝やお昼寝は、休息の範囲内で実施し、夜間の睡眠に影響がないように配慮し、居心地のよい場所となるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬についての意識を高め、服薬前後の状態の変化に気付くことができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの生活が、より充実するためには、どのような支援が必要なのかを職員が気付き、対応できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋内でこもりがちにならないように外気浴にて気分転換を図り、季節感のある外出を心がけ、利用者さんの要望があれば、個別に対応できるように努めている。	週3から4回は外気浴・散歩など外出の機会を設けています。入所当初に比べ、歩行レベルの低下から個別での対応が困難となっている現状がありますが、昼食を本体施設へ取りに行く際に、利用者が交代で同行する等気分転換や役割を感じる機会として活用するなど工夫されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、お小遣いとしてお預かりしているお金はたかはらにおいて管理をさせて頂いているが本人の希望により、外出時やお買い物に行く際、支払いの場面等で対応するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんやご家族の同意のもと、適切に対応できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんにとって、自宅にいることとおなじような空間となるように努めている。また、たかはらの建物が空間に配慮し、圧迫感を感じさせない造りになっている。	事業所全体は、採光の取りやすい造りとなっており、風通しが良い為不快な臭いもありません。中庭テラスやウッドデッキなどは、外気浴をする為に活用されており、川の音が心地よさを感じさせてくれます。共有スペースもソファや多目的室を活用して思い思いに過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を工夫してソファスペースを設け利用者さんやご家族がゆったり過ごせるよう配慮しおひとりで過ごしたい時やご家族や知り合いが来訪されたときには各居室で過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム利用開始時に、自宅にて使い慣れたものを持ち込んで頂き不便が生じないように努めている。また必要に応じて持参頂くよう努めている。	各居室には、個人の使い慣れた家具や写真などが持ち込まれていました。持ち込みに制限は設けていません。施設では、チェストを準備していますが、カーテン(デザインは、選択できる)・ベッドはレンタルとなります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんができるだけ自立した生活を送ることができるよう、職員の声かけや支援にて過介護にならないように努めている。		